外科

緩和医療科

病棟　西病棟　17F

外来　外来診療棟B　1F　　**連絡先**　022-717-7768（外来）

ホームページ　http://www.hosp.tohoku.ac.jp/departments/d1209

科長
井上　彰 教授

主な対象疾患

●各種がん（種類は問いません）

診療内容

2007年に施行された「がん対策基本法」において、緩和医療（緩和ケア）は、手術や放射線療法、化学療法と並ぶ「がん治療の柱」とされ、「終末期」に限った治療ではなく「より良く生きる」ことを目指して進行がんと「診断された時」から行われるべきと明記されています。患者さんが抱える苦痛は、痛みや吐き気などの身体的苦痛だけではなく、精神的苦痛（不安や抑うつ、せん妄、など）や社会的苦痛（就労や介護に関する問題など）、さらには霊的苦痛（スピリチュアルペイン）と多岐にわたりますが、それらを少しでも軽減するために当科では、精神科やリハビリテーション科、歯科などの他科医師や、看護師、薬剤師、栄養士、ソーシャルワーカー、臨床宗教師などの各種専門スタッフが連携し、「全人的なケア」を行います。

2015年に設立された「緩和ケアセンター」を軸に、緩和ケア外来、緩和ケアチーム、緩和ケア病棟が効果的に機能しています。抗がん治療中の患者さんが抱える苦痛は「緩和ケア外来」にて、主たる診療科に併診する形で対応させていただき、必要に応じて認定看護師による「がん看護外来」でも対応します（他院からのセカンドオピニオンも常時受け付けます）。入院中の患者さんには、多職種の専門家で構成される「緩和ケアチーム」が往診し、適切な治療方針を担当医と相談し、速やかな症状緩和を目指します。そして病状が進んで通院治療やご自宅での療養が困難となった患者さんは、当科が主体となって「緩和ケア病棟」にて熟練した医療スタッフが苦痛の緩和にむけて最善を尽くし、患者さん・ご家族が心身ともに穏やかな療養生活を送れるよう努めます（図1,2,3）。

診療体制

外来では、緩和ケア病棟への入棟を希望する患者さんを対象とした「入棟面談」を週4日（13枠）、同病棟への入棟希望の有無に関わらず、疼痛その他の症状緩和を目的とした「緩和ケア外来」を週4日開いており、患者さんのさまざまなニーズに対応しています（急を要する患者さんは臨時の対応もしています）。他科入院中の患者さんに対応する緩和ケアチームは2019年度から2名の専従医師を含む2チーム制となり、認定看護師や薬剤師などのスタッフと定期的に往診して適切な症状緩和を図っています（図4）。緩和ケア病棟には常時3～4名の医師が控え、最大22名の患者さんに専門的緩和ケアを提供しています。

得意分野

日本緩和医療学会認定の緩和医療専門医に加え、日本臨床腫瘍学会によるがん薬物療法専門医が所属し、質の高い「緩和ケアとがん治療の両立」を可能にしています。他にも血液悪性腫瘍の専門医や外科専門医などが所属し、多様性から生まれる「懐の広さ」が当科の特色です。全国的な臨床研究グループにも属しているため、緩和ケアの発展にも熱心に取り組んでいます。医師以外では、国公立の大学病院では全国唯一、臨床宗教師が正規職員として雇用されており、患者さん・ご家族のスピリチュアルペインに寄り添います。

図1 緩和ケア病棟北側病室からの眺望
晴れた日には遠くに七つ森が見えます。

図2 2台備えているリフトバス
寝たきりの患者さんでもゆったりと湯に浸かれて、とても好評です。

図3 隔週で慰問いただいている音楽療法士
クリスマスイベントでの風景（手前左下は「かぶり物」をしている臨床宗教師）

図4 緩和ケアチームの面々
多職種によるチーム医療で他科病棟の患者さんに対応します。

ご紹介いただく際の留意事項

■「入棟面談」「緩和ケア外来」いずれの予約も、まずは当科外来（022-717-7768）までお電話いただき、受診日時をご予約ください（受付時間：月曜～金曜　9時～17時）。紹介状に病名、治療歴、病状説明内容、投薬内容などを記載いただき、画像所見、採血検査データも添付してくださるようお願いいたします。セカンドオピニオンの依頼については、東北大学病院地域医療連携室（http://www.hosp.tohoku.ac.jp/organization/001.html）を通して予約をお取り下さい。